研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 5 年 5 月 2 5 日現在

機関番号: 13301

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2020~2022

課題番号: 20K08605

研究課題名(和文)線維化組織微小環境の制御による慢性腎臓病進展機序の解明と臨床応用

研究課題名(英文)Clarifiation of CKD progression by regulating fibrotic microenvironment

研究代表者

坂井 宣彦(SAKAI, NORIHIKO)

金沢大学・附属病院・准教授

研究者番号:60377421

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文):本研究では腎線維化組織微小環境に焦点をあて、細胞骨格依存性シグナル伝達の意義の解明を目的とした。全身MRTF-A欠損および線維芽細胞特異的MRTF-B欠損マウス(MRTFkoMRTFiFBKO)を用いて、慢性腎臓病モデルを作成した。MRTFkoMRTFiFBKOでは腎線維化の抑制を認めた。また接着斑構成因子や線維化惹起因子発現抑制も認めた。腎線維芽細胞における細胞外基質や接着斑構成因子の発現において、TGFb1-MRTF-SRFシグナルが寄与することを見出した。以上より、MRTF-SRFシグナルが腎線維芽細胞において、接着斑や細胞外基質産生の誘導を介して腎線維化進展に関連することを見出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義本研究では、細胞骨格に関連するMRTF-SRFシグナルが、腎臓を構成する線維芽細胞機能を調節することで腎不全の原因となる線維化に関与するかを試みた。その結果、腎線維芽細胞において、MRTF-SRFシグナルが、腎線維芽細胞を活性化させ、腎線維化進展に寄与することを明らかにした。これは腎障害の原因に関わらない共通進展機序であり、現在増加の一途を辿っている末期腎不全患者数の抑制につながる新規治療法開発につながることが期待される。

研究成果の概要(英文):Fibrosis is characterized by an excessive wound healing response to organ damage, causing extracellular matrix deposition and accumulation of fibroblasts/myofibroblasts. In the process of enal failure, various renal diseases are characterized by taking a common process which is renal fibrosis. In this study, we attempted to elucidate the significance of cytoskeleton-dependent signal for renal fibrosis by regulating the biological properties of renal fibroblasts. As a result, it was revealed that the cytoskeleton-dependent MRTF-SRF signal by TGF-b1 in renal fibroblasts contributes to the expression of focal adhesion components and extracellular matrix such as colalgen and fibronectin. In addition, systemic MRTF-A- and fbroblast-specific MRTF-B- deficiency attenuates renal fibrosis by inhibiting the expression of focal adhesion components and extracellular matrix. Tese results suggest that MRTF-SRF signaling in fibroblast might be a target to combat renal fibrosis.

研究分野: 腎臓内科学

キーワード: 線維化 線維芽細胞 接着斑

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1.研究開始当初の背景

線維化は臓器障害に対する過度の創傷治癒反応、すなわち細胞外基質沈着と細胞外基質産生能を有する細胞の集積を特徴とする。しかし、これら過度の創傷治癒反応をもたらす分子生物学的基盤は完全には同定されていない。なかでも、本邦における末期腎不全による慢性透析患者は30万人を超え、増加の一途を辿っている。近年、末期腎不全の予備軍として慢性腎臓病(CKD)が注目されている。この CKD が進展し腎不全に至る過程において、各種腎疾患はその病因を問わず、糸球体硬化および間質線維化という共通のプロセスをとることを特徴とする。以上より腎間質線維化進展機序の解明は、CKD 進展に対する新規治療法確立につながる治療の標的として重要である。

2.研究の目的

これまで我々は、脂質メディエーターであるリゾフォスファチジン酸(Iysophosphatidic acid; LPA)が臓器固有細胞である腹膜中皮細胞や腎尿細管上皮細胞において、connective tissue growth factor (CTGF)産生を制御する事で腹膜線維化、および腎間質線維化に関与することを報告してきた(Sakai, et al., FASEB J 2013、Sakai, et al, Kidney Int 2017)。その過程で、CTGF 産生機序において、細胞骨格依存性シグナルである myocardin-related transcription factor (MRTF)-A/B-serum response factor (SRF)シグナルを介することを見出した。そこで本研究では、細胞骨格依存性シグナルである MRTF-SRF シグナルが、腎固有細胞であり、線維化の中心的役割を担う腎線維芽細胞の生物学的特性を調節することで腎間質線維化にはたす意義の解明を試みた。

3.研究の方法

まず、細胞骨格依存性シグナルである MRTF-SRF シグナルの腎線維芽細胞にはたす意義を同定した。すなわち、線維化惹起分子の一つである transforming growth factor (TGF)- β 1 で刺激し、コラーゲン架橋酵素である lysyl oxidase ファミリー、細胞外基質(コラーゲン、ファイブロネクチン)にはたす影響を検討した。さらに細胞骨格関連因子であり、細胞外周囲環境との情報伝達を担う接着斑構成因子(インテグリンやインテグリンキナーゼ;ILK)発現を検討した。くわえて CTGF や筋線維芽細胞への分化マーカーである smooth muscle actin (SMA)発現を検討した。最後に、線維芽細胞特異的に MRTF-B を欠損するマウスを Col-creERT2 と MRTF-Bff マウスをかけあわせることで作成し、さらに全身 MRTF-A 欠損マウス (MRTF-A*/-)とかけ合わせることで、全身 MRTF-A 欠損かつ線維芽細胞特異的 MRTF-B 欠損マウス (MRTF-AkoMRTF-Biffko)を作成した。および対照マウス (MRTF-AwtMRTF-B^{1/f})を用いて、アデニン腎症マウスモデルを作成し、腎組織を採取、線維化に与える意義を検討した。

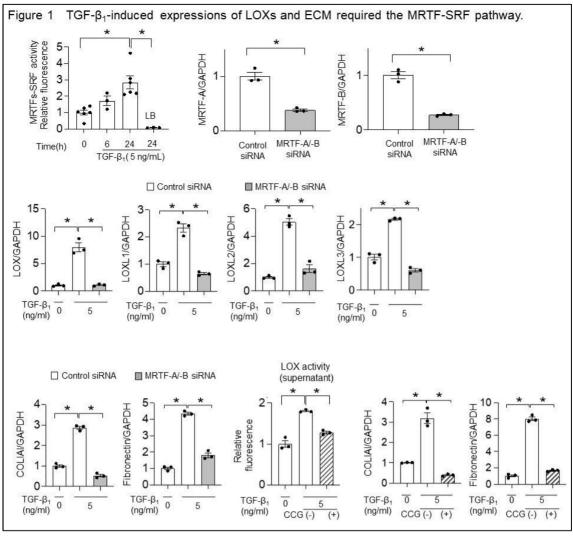
4. 研究成果

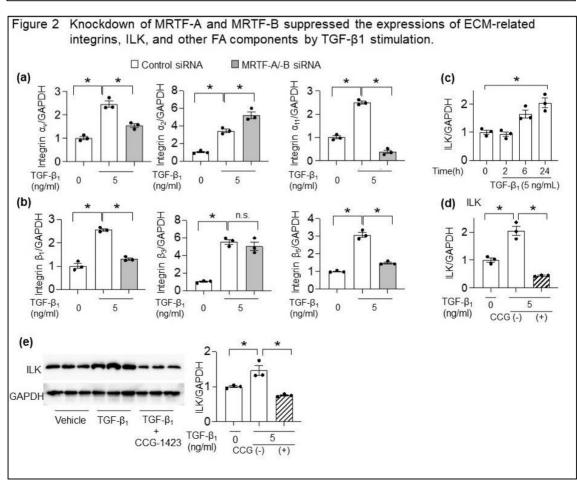
(1)腎線維芽細胞

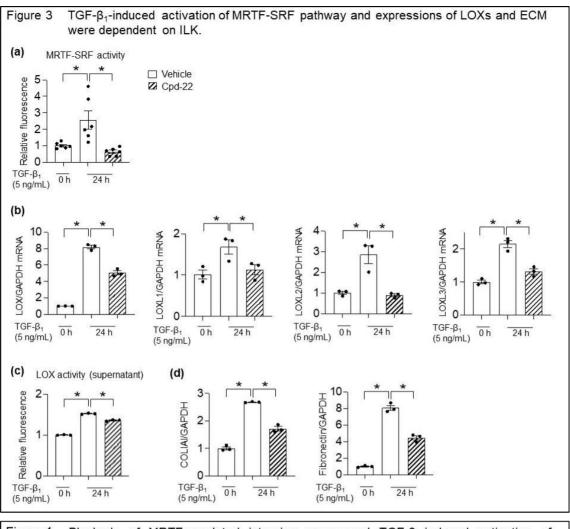
まず TGF- β 1 刺激により、MRTF-SRF シグナ活性が上昇することをプロモーターアッセイにて確認した。またその増強はアクチン重合阻害因子 latrunculin B 処理にて抑制された。続いて TGF- β 1 刺激により LOX ファミリーおよび細胞外基質発現は増強した。一方で、これらは MRTF-A/BsiRNA ダブルトランスフェクションにより、各々の発現は低下した(図 1)。また各種インテグリンや ILK 発現も TGF- β 1 刺激により増加し、一方、MRTF-A/BsiRNA ダブルトランスフェクションにより低下した(図 2)。また、接着斑構成因子の抑制、すなわち ILK 阻害剤 Cpd-22 投与や各種インテグリン si RNA 処理による MRTF-SRF シグナルにはたす役割を検討した。その結果、ILK や各種インテグリン阻害による MRTF-SRF シグナル活性抑制、LOX ファミリーや細胞外基質発現抑制を認めた(図 3-4)。このことから MRTF-SRF シグナル依存性に発現した接着斑構成因子は、さらに MRTF-SRF シグナルを活性化するというポジティブフィードバック機構により LOX ファミリーや細胞外基質などの線維化関連因子が継続産生されることが示唆された。

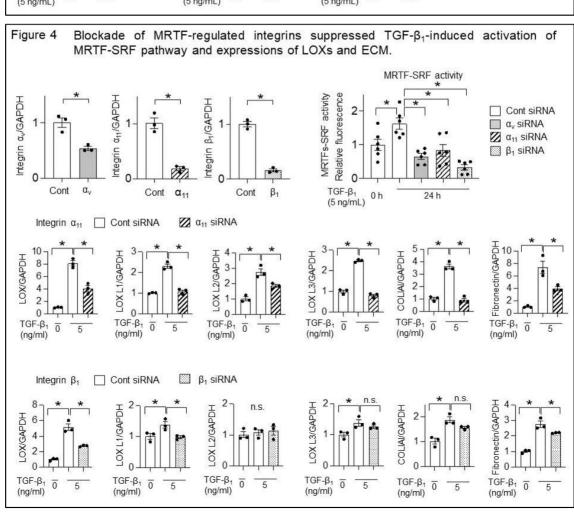
(2)アデニン腎症マウスモデル:アデニン経口投与によりアデニン腎症を作成した。腎ハイドロキシプロリン量および I 型プロコラーゲン発現量は経時的に発現増大を認めた。一方で、(MRTF-AkoMRTF-B^{iFBKO})においては(MRTF-AwtMRTF-B^{f/f})に比してその発現は低下した(図5)。また、腎内各種インテグリンや LOX ファミリー発現に関しても、(MRTF-AkoMRTF-B^{iFBKO})においては ((MRTF-AwtMRTF-B^{f/f})に比してその発現は低下した(図6)。

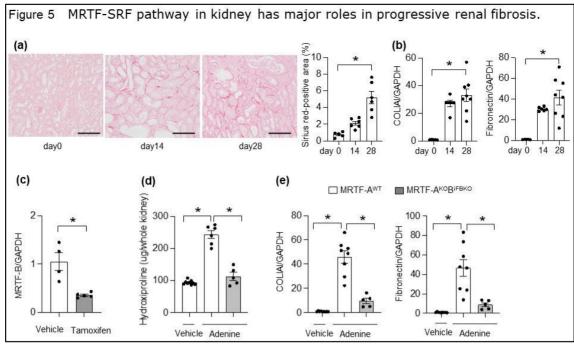
以上より、MRTF-SRF シグナルは、腎線維芽細胞における TGF- β 1 誘導性のポジティブフィードバック活性上昇により、接着斑構成因子や LOX ファミリー、細胞外基質産生を介して腎間質線維化に寄与することを明らかにした (FASEB J, in press)

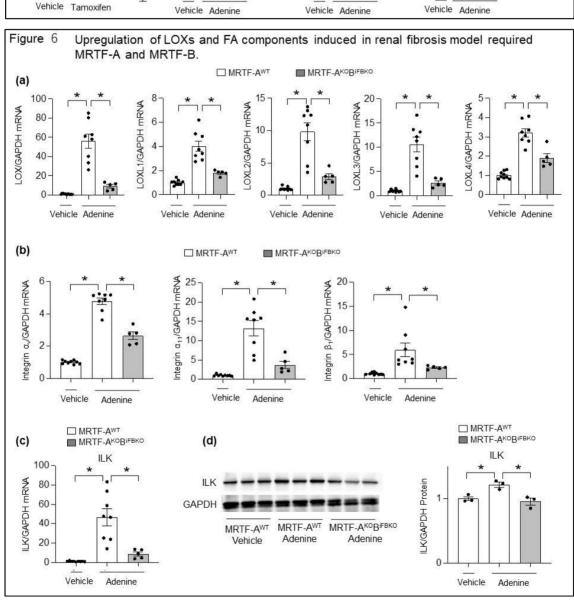












5 . 主な発表論文等

「雑誌論文 〕 計15件(うち査詩付論文 15件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 8件)

〔雑誌論文〕 計15件(うち査読付論文 15件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 8件)	
1.著者名 Yuta Yamamura, Norihiko Sakai, et al.	4.巻
2.論文標題 Myocardin-related transcription factor contributes to renal fibrosis through regulation of extracellular microenvironment surrounding fibroblasts	5 . 発行年 2023年
3.雑誌名 The FASEB Journal	6.最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1 . 著者名 Iwata Yasunori、Nakade Yusuke、Kinoshita Masashi、Sabit Hemragul、Nakajima Riho、Furuichi Kengo、Mita Masashi、Nakane Maiko、Sakai Norihiko、et al.	4.巻 g
2.論文標題 Intra-Brain and Plasma Levels of L-Serine Are Associated with Cognitive Status in Patients with Chronic Kidney Disease	
3.雑誌名 Kidney Diseases	6.最初と最後の頁 118~130
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000527798	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1. 著者名 Nakade Yusuke、Iwata Yasunori、Sakai Norihiko、Mita Masashi、Nakane Maiko、Hamase Kenji、Suda Wataru、Toyama Tadashi、Kitajima Shinji、Hara Akinori、Shimizu Miho、Ogushi Chikako、Furuichi Kengo、Koshino Yoshitaka、Morita Hidetoshi、Hattori Masahira、Wada Takashi	4.巻 12
2 . 論文標題 Increased levels of oral Streptococcus-derived d-alanine in patients with chronic kidney disease and diabetes mellitus	5 . 発行年 2022年
3.雑誌名 Scientific Reports	6.最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-022-26175-1	 査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1.著者名 Hara Akinori、Wada Takashi、Muso Eri、Maruyama Shoichi、Kato Sawako、Furuichi Kengo、Yoshimura Kenichi、Toyama Tadashi、Sakai Norihiko、et al.	4.巻 52
2.論文標題 Effect of Low-Density Lipoprotein Apheresis on Quality of Life in Patients with Diabetes, Proteinuria, and Hypercholesterolemia	5 . 発行年 2022年
3.雑誌名 Blood Purification	6.最初と最後の頁 373~381
 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000527900	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著

1 . 著者名 Yamamura Yuta、Iwata Yasunori、Furuichi Kengo、Kato Takahiro、Yamamoto Naoki、Horikoshi Keisuke、Ogura Hisayuki、Sato Koichi、Oshima Megumi、Nakagawa Shiori、Miyagawa Taro、Kitajima Shinji、Toyama Tadashi、Hara Akinori、Sakai Norihiko、Shimizu Miho、Horike Shinichi、Daikoku Takiko、Nishinakamura Ryuichi、Wada Takashi	4 . 巻 36
2. 論文標題 Kif26b contributes to the progression of interstitial fibrosis via migration and myofibroblast differentiation in renal fibroblast	5 . 発行年 2022年
3.雑誌名 The FASEB Journal	6.最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1096/fj.202200355R	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 Axelsson Raja Anna、Wakimoto Hiroko、DeLaughter Daniel M.、Reichart Daniel、Gorham Joshua、 Conner David A.、Lun Mingyue、Probst Clemens K.、Sakai Norihiko、et al.	4.巻
2. 論文標題 Ablation of lysophosphatidic acid receptor 1 attenuates hypertrophic cardiomyopathy in a mouse model	5 . 発行年 2022年
3.雑誌名 Proceedings of the National Academy of Sciences	6.最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1073/pnas.2204174119	 査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する
1 . 著者名 Sako Keisuke、Furuichi Kengo、Makiishi Shohei、Yamamura Yuta、Okumura Toshiya、Le Hong Thu、 Kitajima Shinji、Toyama Tadashi、Hara Akinori、Iwata Yasunori、Sakai Norihiko、Shimizu Miho、 Niimura Fumio、Matsusaka Taiji、Kaneko Shuichi、Wada Takashi	4.巻 102
2.論文標題 Cyclin-dependent kinase 4-related tubular epithelial cell proliferation is regulated by Paired box gene 2 in kidney ischemia-reperfusion injury	5 . 発行年 2022年
3.雑誌名 Kidney International	6.最初と最後の頁 45~57
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.kint.2022.03.022	 査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 Iwata Yasunori、Sakai Norihiko、Nakajima Yuki、Oshima Megumi、Nakagawa-Yoneda Shiori、Ogura Hisayuki、Sato Koichi、Minami Taichiro、Kitajima Shinji、Toyama Tadashi、Yamamura Yuta、 Miyagawa Taro、Hara Akinori、Shimizu Miho、Furuichi Kengo、Wada Takashi	4.巻 22
2 . 論文標題 Anti-fibrotic potential of erythropoietin signaling on bone marrow derived fibrotic cell	5 . 発行年 2021年
3.雑誌名 BMC Nephrology	6.最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12882-021-02411-0	 査読の有無 有
オープンアクセス	国際共著

1. 著者名 Iwata Yasunori、Sakai Norihiko、Yoneda Ikuko、Senda Yasuko、Sakai-Takemori Yukiko、Oshima Megumi、Nakagawa-Yoneda Shiori、Ogura Hisayuki、Sato Koichi、Minami Taichiro、Kitajima Shinji、 Toyama Tadashi、Yamamura Yuta、Miyagawa Taro、Hara Akinori、Shimizu Miho、Furuichi Kengo、 Matsushima Kouji、Wada Takashi	4.巻 537
2.論文標題 D-Serine inhibits the attachment and biofilm formation of methicillin-resistant Staphylococcus aureus	5 . 発行年 2021年
3.雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6.最初と最後の頁 50~56
担告会会の2017ででもリーナープングローナープングローナープングロース	本註の左便
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2020.12.078	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名 Makiishi Shohei、Furuichi Kengo、Yamamura Yuta、Sako Keisuke、Shinozaki Yasuyuki、Toyama Tadashi、Kitajima Shinji、Iwata Yasunori、Sakai Norihiko、Shimizu Miho、Hirose-Sugiura Tomoko、 Kaneko Shuichi、Kato Yukio、Wada Takashi	4.巻 11
2.論文標題 Carnitine/organic cation transporter 1 precipitates the progression of interstitial fibrosis through oxidative stress in diabetic nephropathy in mice	5 . 発行年 2021年
3.雑誌名 Scientific Reports	6.最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-88724-4	査読の有無 有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
. ##.6	
1.著者名 Yamamura Yuta、Furuichi Kengo、Murakawa Yasuhiro、Hirabayashi Shigeki、Yoshihara Masahito、Sako Keisuke、Kitajima Shinji、Toyama Tadashi、Iwata Yasunori、Sakai Norihiko、Hosomichi Kazuyoshi、 Murphy Philip M.、Tajima Atsushi、Okita Keisuke、Osafune Kenji、Kaneko Shuichi、Wada Takashi	4.巻 11
2.論文標題 Identification of candidate PAX2-regulated genes implicated in human kidney development	5 . 発行年 2021年
3.雑誌名 Scientific Reports	6.最初と最後の頁 -

掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-88743-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Miyake Taito、Sakai Norihiko、Tamai Akira、Sato Koichi、Kamikawa Yasutaka、Miyagawa Taro、Ogura Hisayuki、Yamamura Yuta、Oshima Megumi、Nakagawa Shiori、Sagara Akihiro、Shinozaki Yasuyuki、 Toyama Tadashi、Kitajima Shinji、Hara Akinori、Iwata Yasunori、Shimizu Miho、Furuichi Kengo、 Kaneko Shuichi、Wada Takashi	4.巻 10
2.論文標題 Trehalose ameliorates peritoneal fibrosis by promoting Snail degradation and inhibiting mesothelial-to-mesenchymal transition in mesothelial cells	5 . 発行年 2020年
3.雑誌名 Scientific Reports	6.最初と最後の頁 14292
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-71230-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著

1 . 著者名	4 . 巻
। विचिच Iwata Yasunori, Sakai Norihiko, Yoneda Ikuko, Satou Kenji, et al.	26
	- 3%/- <i>-</i> -
. 論文標題	5.発行年
The increased frequency of methicillin-resistant Staphylococcus aureus with low MIC of beta-	2020年
lactam antibiotics isolated from hospitalized patients	
.雑誌名	6 . 最初と最後の頁
Journal of Infection and Chemotherapy	604 ~ 610
載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1016/j.jiac.2020.01.016	有
10.1016/j.j.j.uo.2020.011010	13
ープンアクセス	国際共著
	国际六有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	<u>-</u>
. 著者名	4 . 巻
Hara Akinori, Shimizu Miho, Hamaguchi Erika, Kakuda Hirokazu, Ikeda Kenzo, Okumura Toshiya,	3
	3
Kitagawa Kiyoki, Koshino Yoshitaka, Kobayashi Motoo, Takasawa Kazuya, Hisada Yukimasa, Toyama	
Tadashi、Iwata Yasunori、Sakai Norihiko、Wada Takashi	
<u> </u>	F 36/-/-
. 論文標題	5.発行年
Propagermanium administration for patients with type 2 diabetes and nephropathy: A randomized	2020年
pilot trial	
. 雑誌名	6.最初と最後の頁
Endocrinology, Diabetes & Metabolism	e00159
載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	本芸の左仰
·	査読の有無
10.1002/edm2.159	有
ープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
.著者名	4 . 巻
Iwata Yasunori, Kitajima Shinji, Yamahana Junya, Shimomura Shuji, Yoneda Nakagawa Shiori,	24
Sakai Norihiko, Furuichi Kengo, Ogura Hisayuki, Sato Koichi, Toyama Tadashi, Yamamura Yuta,	
Miyagawa Taro, Hara Akinori, Shimizu Miho, Ohkawa Ryunosuke, Kurano Makoto, Yatomi Yutaka, Wada	
Takashi	
. 論文標題	5.発行年
	2020年
Higher serum levels of autotaxin and phosphatidylserine specific phospholipase A	2020#
in patients with lupus nephritis	c = = = = = = = = = = = = = = = = = = =
	6.最初と最後の頁
	004 000
. 維誌台 International Journal of Rheumatic Diseases	231 ~ 239
	231 ~ 239
International Journal of Rheumatic Diseases	
International Journal of Rheumatic Diseases 載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
International Journal of Rheumatic Diseases 載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
International Journal of Rheumatic Diseases 載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1111/1756-185X.14031	査読の有無有
International Journal of Rheumatic Diseases 載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1111/1756-185X.14031 ープンアクセス	査読の有無
International Journal of Rheumatic Diseases 載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1111/1756-185X.14031	査読の有無有
International Journal of Rheumatic Diseases 載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1111/1756-185X.14031 ープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	査読の有無有
International Journal of Rheumatic Diseases 載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1111/1756-185X.14031 ープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 学会発表】 計6件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)	査読の有無 有
International Journal of Rheumatic Diseases 載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1111/1756-185X.14031 ープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 全会発表〕 計6件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件) . 発表者名	査読の有無 有
International Journal of Rheumatic Diseases 載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1111/1756-185X.14031 ープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 全会発表〕 計6件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件) . 発表者名	査読の有無有
載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1111/1756-185X.14031 ープンアクセス	査読の有無 有
International Journal of Rheumatic Diseases 載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1111/1756-185X.14031 ープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 学会発表】 計6件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件) . 発表者名	査読の有無有
	査読の有無 有 国際共著
Thternational Journal of Rheumatic Diseases 載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無 有 国際共著
Thternational Journal of Rheumatic Diseases 載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1111/1756-185X.14031 ープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 全会発表] 計6件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件) . 発表者名 清水美保、宮川太郎、北島信治、遠山直志、原章規、岩田恭宜、坂井宣彦、和田隆志 . 発表標題	査読の有無 有 国際共著
Thternational Journal of Rheumatic Diseases 載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無 有 国際共著 -

第66回日本透析医学会学術集会総会

4.発表年 2021年

1.発表者名 中川詩織、岩田恭宜、大島惠、小倉央行、佐藤晃一、山村雄太、宮川太郎、北島信治、遠山直志、原章規、坂井宣彦、清水美保、和田隆志
2 及主
2.発表標題 ISN/RPS改訂組織分類によるループス腎炎の長期予後の検討
3.学会等名
第65回日本リウマチ学会総会学術集会
4.発表年 2021年
1.発表者名 坂井宣彦、和田隆志
2. 発表標題
造血器腫瘍性疾患における腎障害
3.学会等名
日本腎臓学会西部学術大会
4 . 発表年 2020年
1.発表者名
坂井宣彦、和田隆志
2 . 発表標題
発症機序に基づいた、薬剤性腎障害へのアプローチ
3 . 学会等名 日本内科学会北陸地方会
4 . 発表年
2020年
1.発表者名
中川詩織、北島信治、加治貴彰、大島恵、小倉央行、佐藤晃一、山村雄太、宮川太郎、遠山直志、原章規、北川清樹、岩田恭宜、坂井宣 彦、清水美保、和田隆志
2.発表標題 RPGNを呈するループス腎炎に対するアフェレシス療法の意義
2
3 . 学会等名 日本アフェレシス学会
4.発表年
2020年

1	.発表者名 堀越 慶輔,坂井 宣彦,小倉 央行,佐藤 晃一,宮川 太郎,山内 博行, 北島 信治,遠山 直志,原 章規,岩田 恭宜,清水 美保,大田 聡 , 石田 陽一,和田 隆志
2	. 発表標題
	短時間腹膜平衡試験による腹膜機能評価および予後予測
	3-3-3-3-3-3-3-3-3-3-3-3-3-3-3-3-3-3-3-
3	. 学会等名
	- 1 - 本透析医学会
4	.発表年
	2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6.研究組織

 ・ WI プロボロ PM		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
和田 隆志	金沢大学・その他部局等・その他	
开究 分 也 当		
(40334784)	(13301)	

7.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	マサチューセッツ総合病院			